



【資料】各種調査結果/まちづくりに対する新市民の声と地域の強み  
新市民の声を集める 1

# 地域アンケート調査

人々の意見を、将来構想の材料としました

この調査は、長岡地域任意合併協議会（8市町村）が実施したものです。

新市の将来のあり方については、8市町村の多くの人々の声を集めることが重要であると捉え、平成15年4月、8市町村の住民の方々、7,000人を対象とするアンケートを実施しました。「地域への思い」「地域の資源」「将来ありたい地域像」など、多くの声が寄せられました。

## アンケート結果の概要

（詳しい内容やグラフについては、次ページ以降をご覧ください）

### ●地域への愛着や今後への期待（調査結果1）

総合的に住民の地域への愛着は高く、今後地域が良くなることへの期待も高いことがわかりました。

### ●新市に対する期待と不安（調査結果2・3・4）

新市に対する最大の期待は、「働きやすいまち」を斬新かつ新しい施策展開によって、実現することです。さらに、「安全・安心」「人づくり」「地球に優しい」といった現在の地域の強みを維持し、医療・福祉・環境関連の施策充実を求める声も多く寄せられました。合併に伴う不安に対しては、住民参加、地域の文化や伝統の維持に配慮し、各地域の個性を活かしたまちづくりを進めること、行政経費を削減することに注力する必要があると考えています。

### ●新市に期待する個性

今後の新市の性格としては、「協調性」や「人情に厚い」ことに加えて、「情報に敏感で、積極的かつチャレンジング（挑戦的）に活動し、向上していきたい」「自主性を持って責任のあるリーダーとして振舞いたい」という住民の意向がうかがえます。

### ●新市の行政のあり方（調査結果5）

具体的な行政テーマについても現在の評価と、今後どういった施策が重要かをたずねました。その結果、継続強化すべきものと、新たな対策が必要なものとして、以下の事項を重要と考えていることがわかりました。

#### 1. 継続強化すべき重要事項

- ・安全で安心できる防犯・防災対策
- ・河川や森林などの自然保護
- ・学校教育の施設整備や教育内容の高度化・充実
- ・ごみの回収・分別・リサイクル化
- ・保育所や幼稚園の整備をはじめとする子育て支援施策
- ・生活習慣病の予防や健康づくり活動の促進
- ・静かで落ち着いた住環境の整備
- ・上下水道や集落排水施設の整備・充実

#### 2. 新しい対策が必要な重要事項

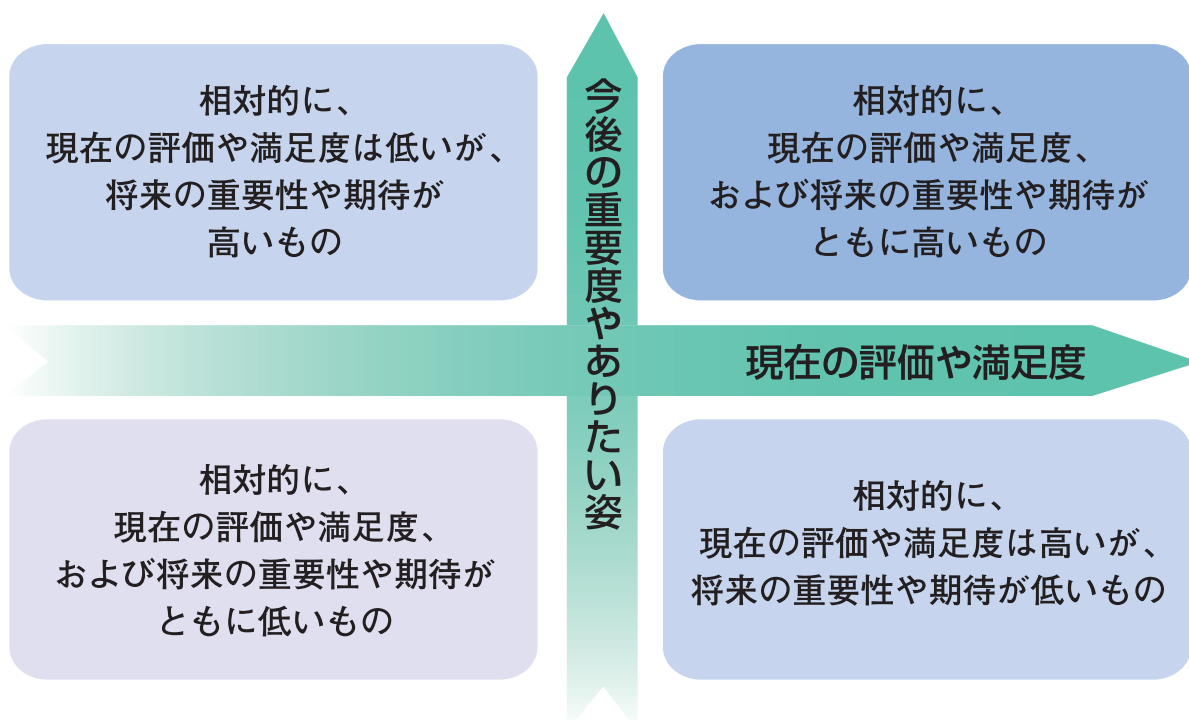
- ・商店街の活性化などの商業振興
- ・地場産業振興や企業誘致などによる製造業の振興
- ・地域医療体制の整備・充実・高度化
- ・道路や公共施設のバリアフリーの推進
- ・情報産業など新しい産業や事業の育成
- ・老人・障害者福祉施設の整備・充実
- ・プライバシーや個人情報保護
- ・老人や障害者に対する在宅サービスの充実
- ・公害防止や省エネルギー化への取り組み

### ●地域資源の評価と活用(調査結果6)

今後新市が発展したり、より住みよいまちになるために重要な地域の資源についてたずねたところ、以下の結果となりました。

1. 維持・活用・強化すべきもの	「花火」「信濃川などの河川」「米（米作）」「米百俵の精神」「変化に富んだ自然」「山や森の緑」「伝統行事・祭り」「交通の利便性」
2. (1項に加えて) 今後も維持すべきもの	「教育施設・環境」「蛍の飛ぶ風景」
3. (1項に加えて) 観光などの振興に活用すべきもの	「酒造」「雪景色」
4. アイデンティティ・コミュニティの基になるもの (1~3と重複)	「伝統行事・祭り」「花火」「変化に富んだ自然」「郷土の食べ物」「蛍の飛ぶ風景」「米百俵の精神」「山や森の緑」「信濃川などの河川」
5. (1項に加えて) 観光などの地域振興に活用すべきもの	「電子・機械工業」「交通の利便性」「米（米作）」「酒造」

### 【複合分析図の見方】



次ページからの調査結果では、通常の円グラフや棒グラフなどに加えて、「複合分析図（マトリクス分析結果）」が出てきます。これは、二つの調査結果をまとめて表現したもので、通常は、縦の軸が「今後の重要度や期待」を表し、上にあるものほど重要なものとなります。一方、横の軸は「現在の評価や満足度」で、右にあるものほど現在の評価が高い、または満足しているということになります。（その位置は相対的な指数によって処理しています）

ただ、地域資源に関する複合分析図(調査結果6)は、縦軸が「他地域に比べて優れているという回答率」、横軸が「大切にしたいという回答率」を指数化したもので、右上にあるものほど、「大切にあり、優れているもの」となります。

## 地域アンケートの実施概要

### 1. 調査方法

8市町村の住民基本台帳より無作為抽出法および系統抽出法により、調査対象者を抽出し、郵送調査を行った

### 2. 調査期間

発送：平成15年4月16日 記入期間：4月30日まで 回収：5月9日到着分

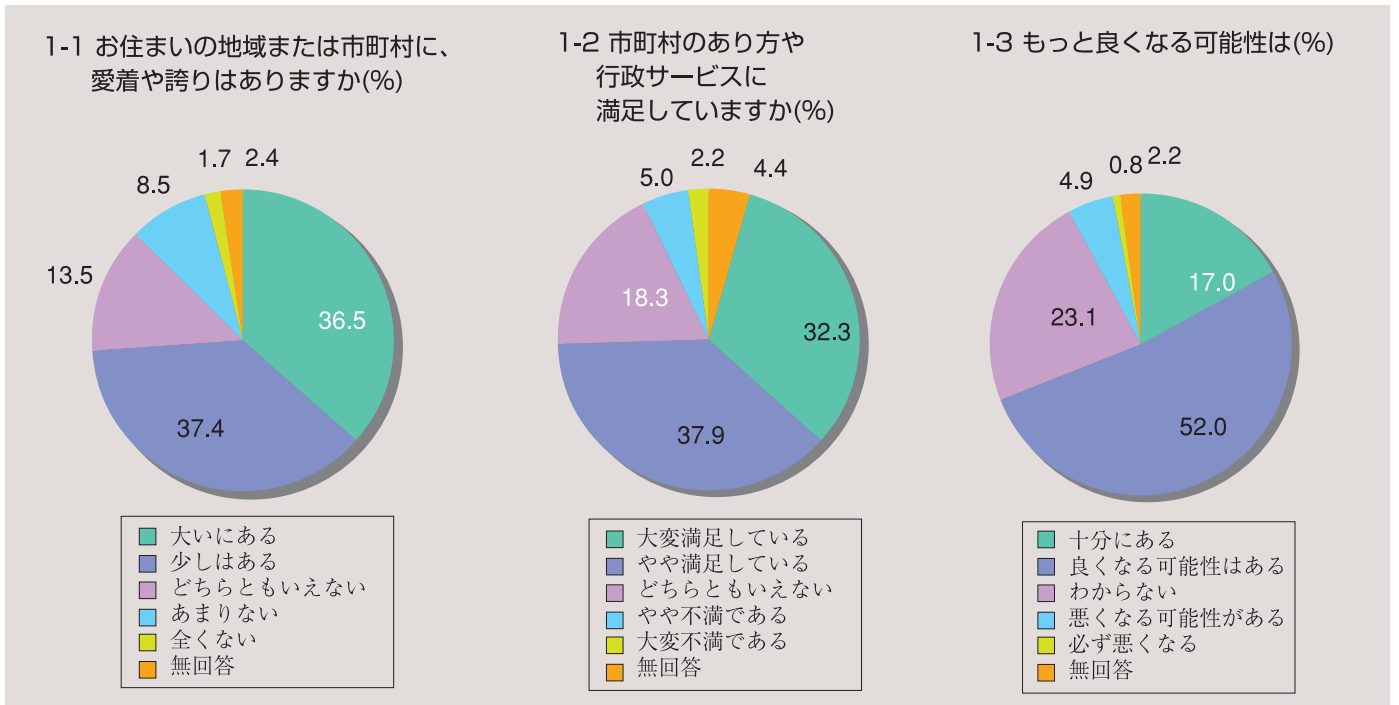
### 3. 調査回収結果

発送数7,000票 回収数：4,327票 回収率：61.8%



## 調査結果(1) 地域への愛着・満足度・期待

多くの住民の方々が、地域へ愛着を持ち、今後もっと良くなるという期待を持っていることがわかりました。

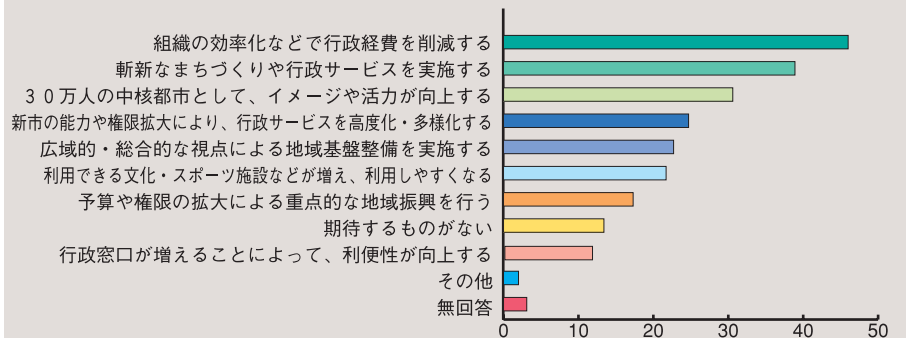


## 調査結果(2)

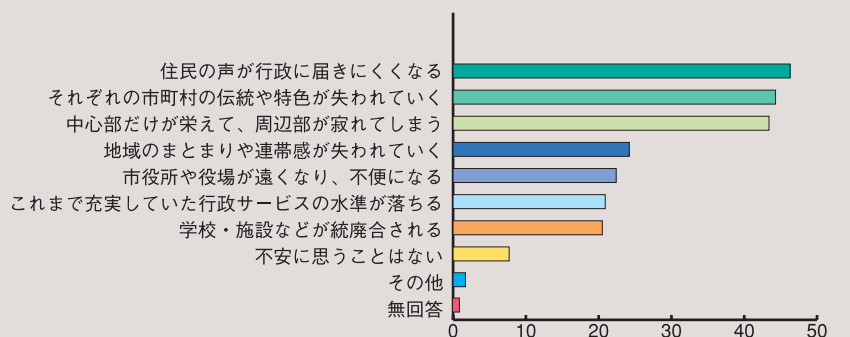
### 合併に対する期待・不安

合併に対しては「組織の効率化などで行政経費を削減する」「斬新なまちづくりや行政サービスを実施する」といった期待に応え、「住民の声が行政に届きにくくなる」「それぞれの市町村の伝統や特色が失われていく」「中心部だけが栄えて、周辺部が寂れてしまう」といった不安を払拭していくことが求められています。

#### 合併に際し、期待すること(%)



#### 合併に際し、不安に思うこと(%)

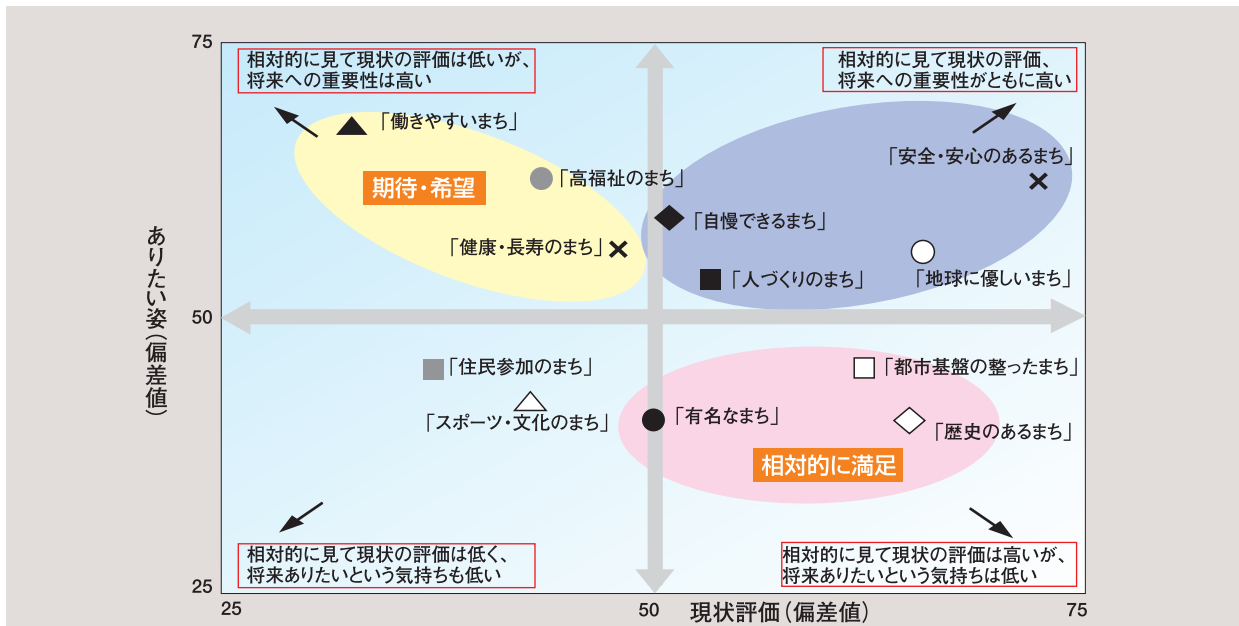


### 調査結果(3) 地域像の「いま」と「これから」に関する複合分析

(複合図の見方は116p参照)

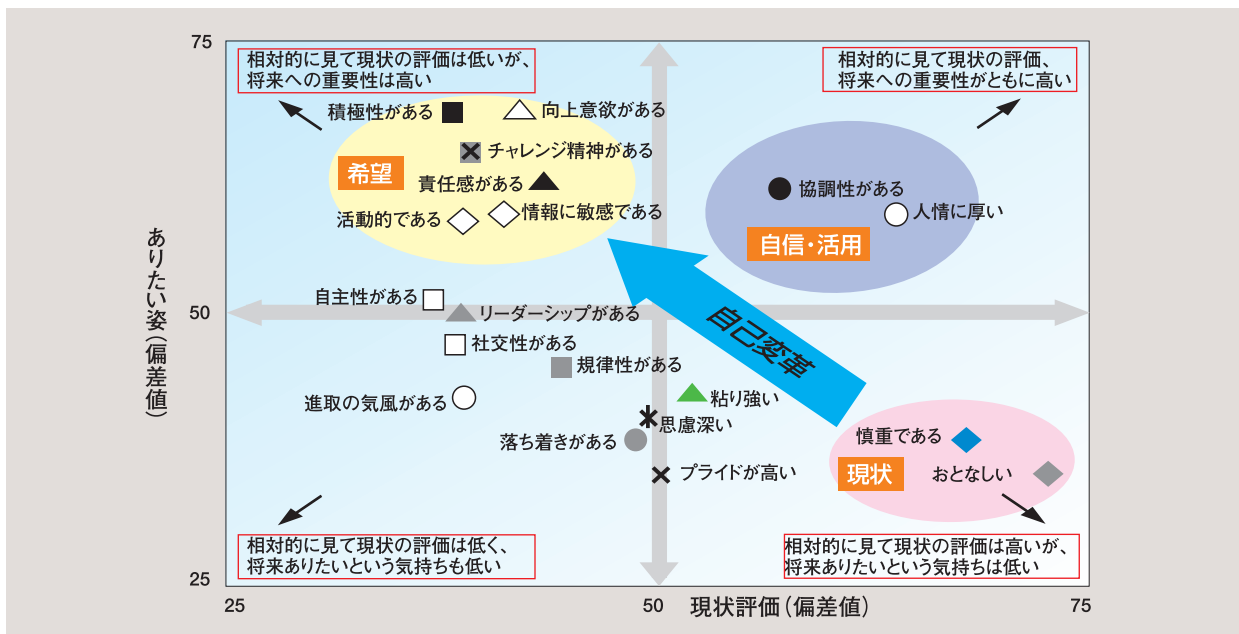
新市地域の今のイメージと、今後のありたいイメージを尋ねました。

下の図の、右の方にあるものが、現在当てはまると思う地域イメージで、上の方にあるものが、これからありたい姿です。その結果、多くの住民の方々が、現在の「安全・安心のあるまち」を維持しつつ、「働きやすいまち」「高福祉のまち」を実現すべきだと考えていることがわかります。



### 調査結果(4) 地域のパーソナリティ(個性)の複合分析

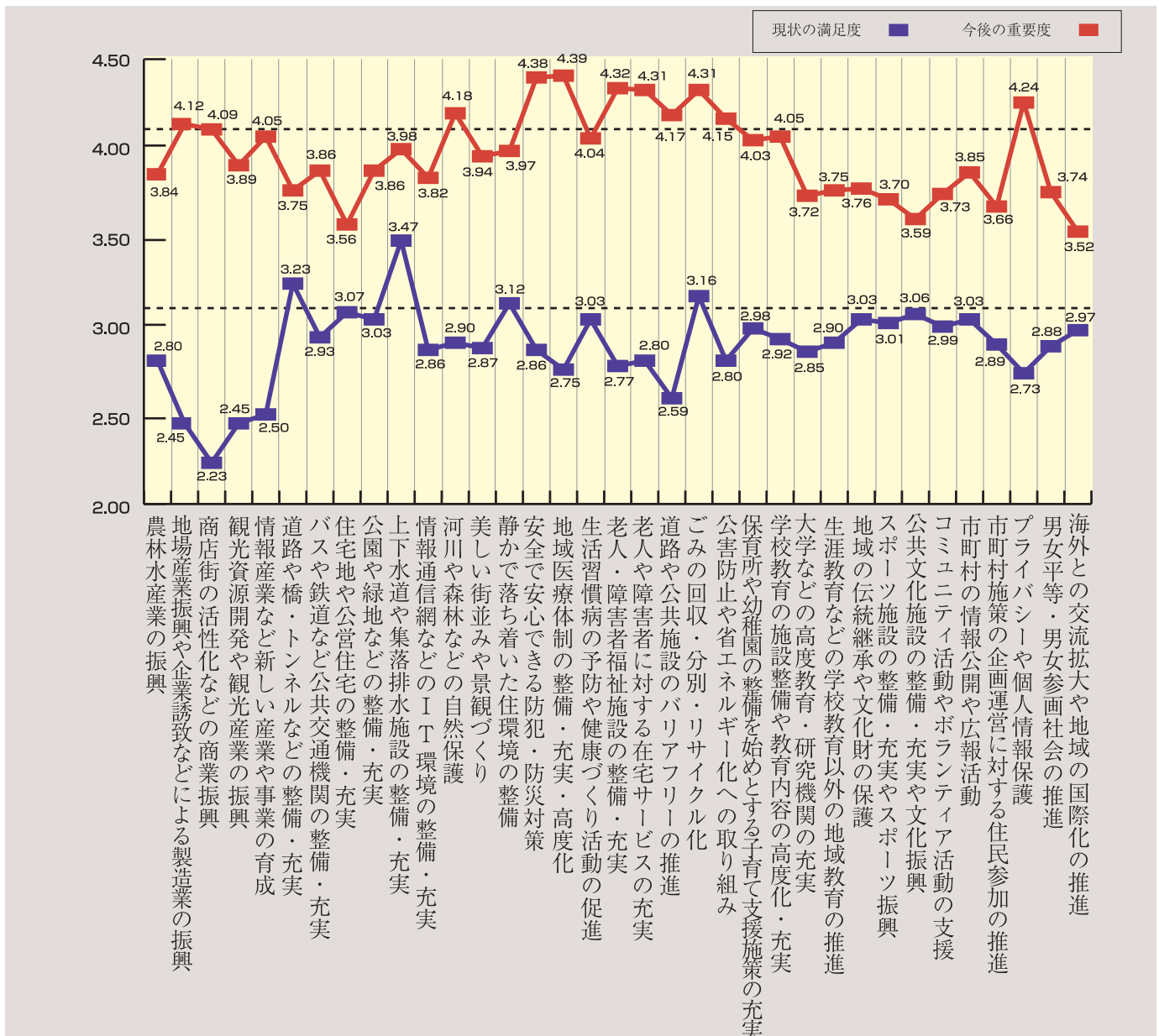
「協調性」や「人情に厚い」という特長を維持しつつ、現在の「おとなしく慎重である」姿から、「情報に敏感で、積極的かつチャレンジングに活動し、向上していきたい」「自主性を持って責任のあるリーダーとして振舞いたい」という意向が現れています。



## 調査結果(5-1) 個別行政施策の現状満足度と今後の重要度

8市町村住民の方々に、主要な行政施策に関する項目について、現在の評価と今後の重要度を5段階で答えていただきました。その結果は以下のようになりました。(5段階評価の平均点をグラフ化。3点が基準となります)

1. 現状満足度の高いもの (3.1点以上) = 「上下水道や集落排水施設の整備・充実」「道路や橋・トンネルなどの整備・充実」「ごみの回収・分別・リサイクル化」「静かで落ち着いた住環境の整備」
2. 今後重要なもの (4.1点以上) = 「地域医療体制の整備・充実・高度化」「安全で安心できる防犯・防災対策」「老人・障害者福祉施設の整備・充実」「ごみの回収・分別・リサイクル化」「老人や障害者に対する在宅サービスの充実」「プライバシーや個人情報保護」「河川や森林などの自然保護」「道路や公共施設のバリアフリーの推進」「公害防止や省エネルギー化への取り組み」「地場産業振興や企業誘致などによる製造業の振興」





## 調査結果(5-2) 個別行政施策の複合分析（産業振興・ハード関連）

調査結果5-1で示した個別行政テーマのうち、産業振興や都市インフラに関するテーマを図表で示すと以下のようになります。

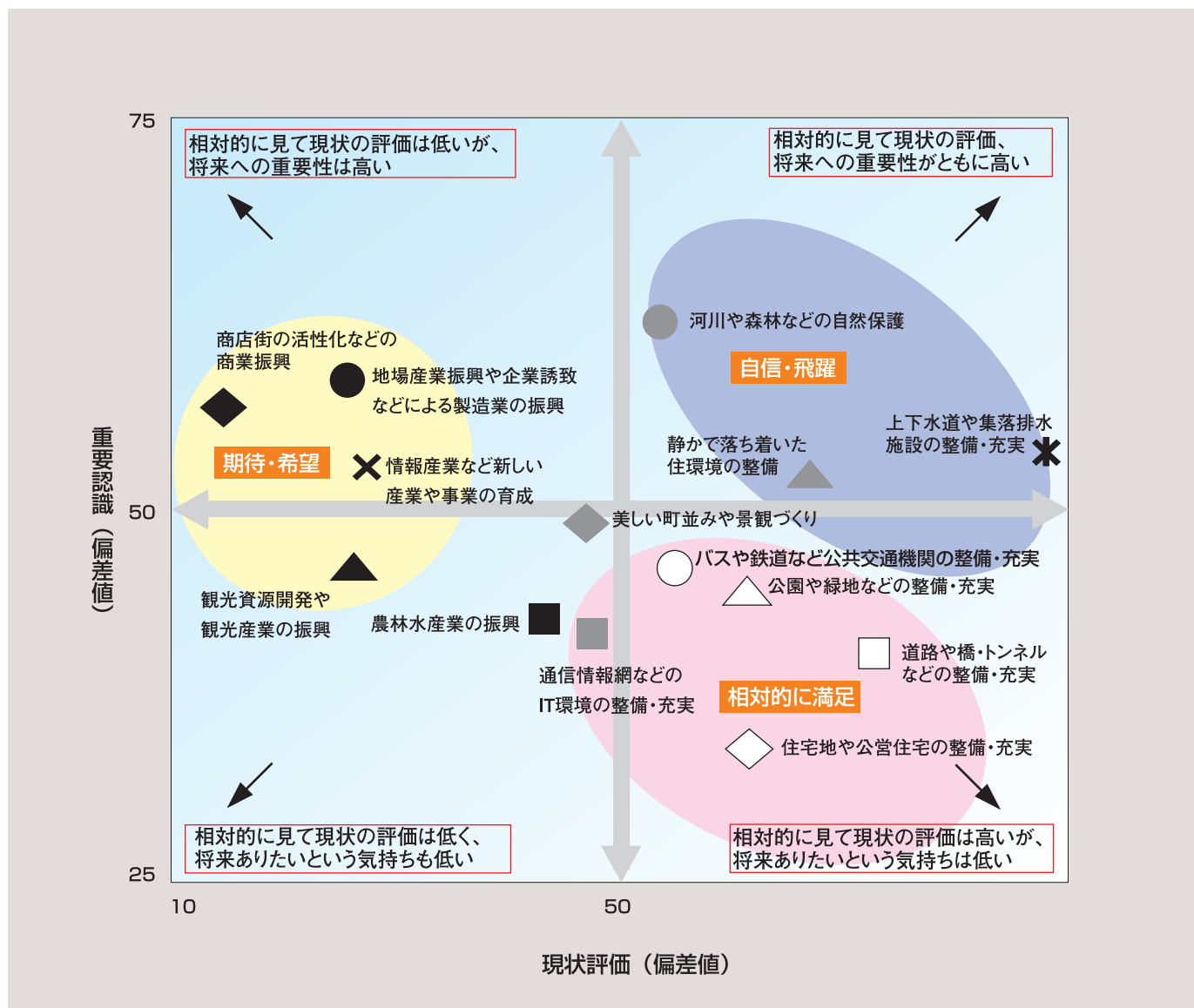
### 【継続・強化していくべきもの】

右上領域にある「河川や森林などの自然保護」「上下水道や集落排水施設の整備・充実」「静かで落ち着いた住環境の整備」などは現在評価も重要性も高いもので、現在の施策を基本的に継続・強化し、「強みを伸ばす」ことが求められているといえます。

### 【新しい対策が必要なもの】

新しい対策が必要なものは、現状評価が低く、今後の重要度が高いものです。それは図の左上にあるもので、「商店街の活性化などの商業振興」「地場産業振興や企業誘致などによる製造業の振興」「情報産業など新しい産業や事業の育成」などです。

各種の産業振興が重要課題である一方、自然保護をおろそかにしないでほしいとの意向が現れています。



## 調査結果(5-3) 個別行政施策の複合分析 (ソフト・行政運営関連)

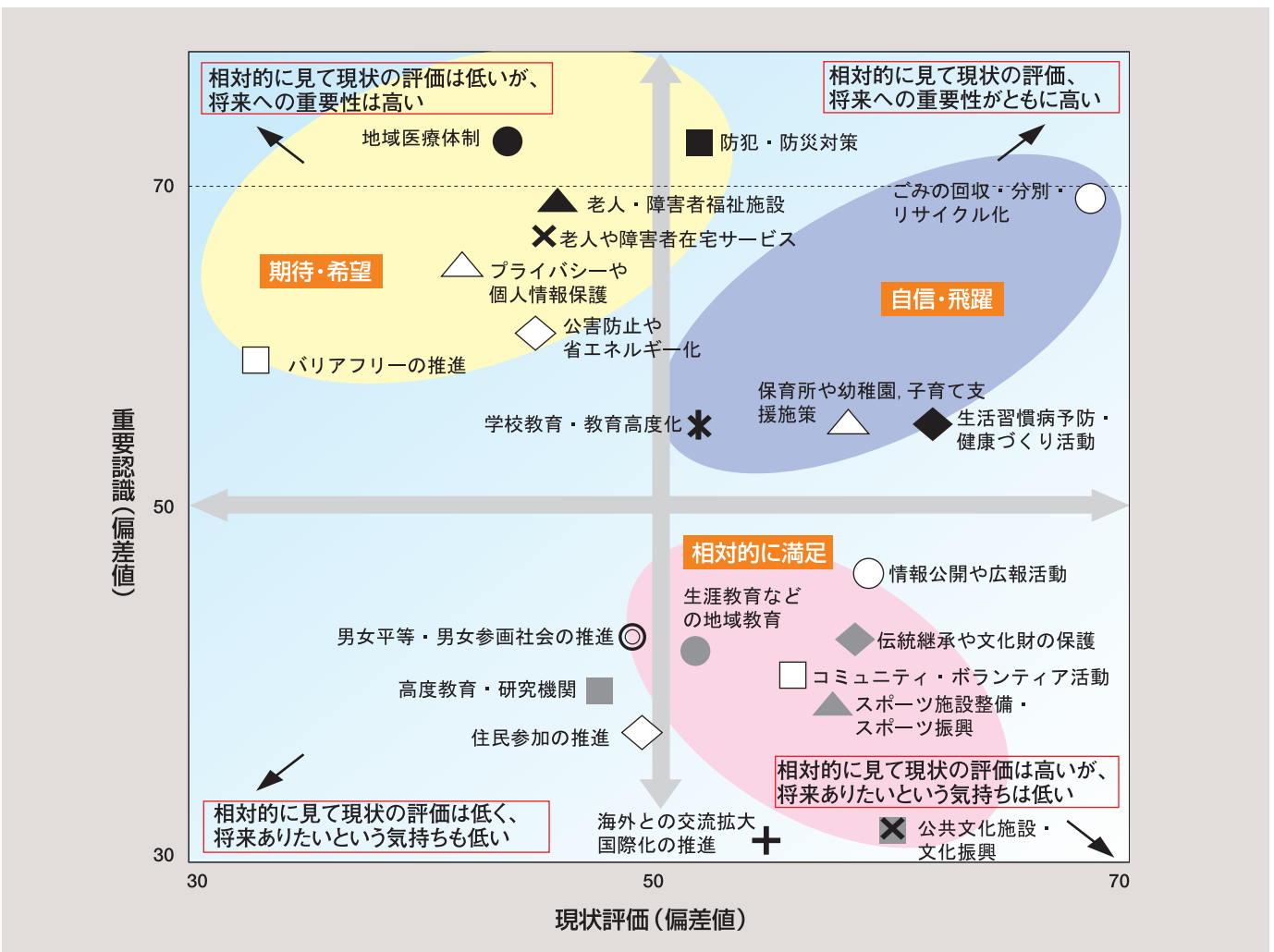
調査結果5-1で示した個別行政テーマのうち、行政サービスや行政運営に関するテーマを図表で示すと以下のようになります。

### 【維持・強化していくべきもの】

右上の領域にある「ごみの回収・分別・リサイクル化」「生活習慣病の予防や健康づくり活動の促進」「保育所や幼稚園の整備を始めとする子育て支援施策」「学校教育・教育高度化」については、強みを伸ばす重点テーマとして、現状の維持・強化が望まれています。

### 【今後の重要度が高いもの】

左上領域の「地域医療体制の整備・充実・高度化」「老人・障害者福祉施設の整備・充実」「老人や障害者に対する在宅サービスの充実」「プライバシーや個人情報保護」「バリアフリーの推進」「公害防止や省エネルギー化への取り組み」は、現状評価が低く、今後の重要度が高いものです。また、「防犯・防災対策」についても現状評価に比べて今後の重要度認識が高くなっています。これらの項目については、新しい対策も必要となると考えられます。全体的に重要とされているのは、医療・福祉および環境関連テーマが中心になっています。



## 調査結果(6) 地域資源の複合分析

地域の代表的な特色や優れた事物（地域資源）について、「大切なもの」と、「他地域に比べて優れているもの」を選んでもらいました。下の図で、右にあるものほど、「大切なもの」で、上にあるほど、「他地域に比べて優れているもの」です。

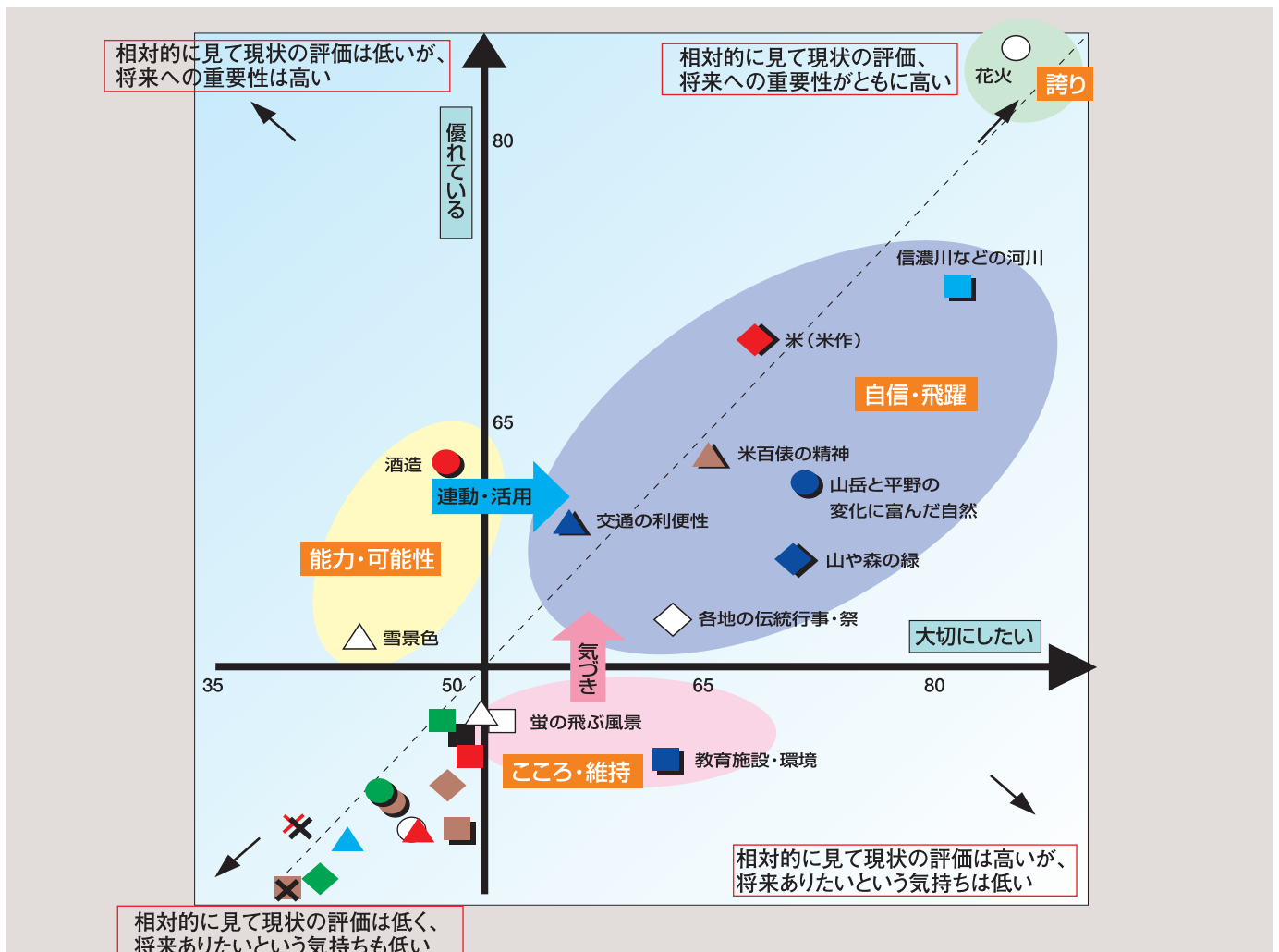
### 【地域発展のための資源】

住民の方々の意向に即した地域発展のための資源となりうるものとして、「花火」「信濃川などの河川」「米（米作）」「米百俵の精神」「山岳と平野の変化に富んだ自然」「山や森の緑」「各地の伝統行事・祭り」といった伝統・自然資源に加えて、「交通の利便性」などがあることがわかります。

### 【住民にとって大切なもの】

「教育施設・環境」「蛍の飛ぶ風景」は、特に優れてはいないかもしれませんが、住民の方々にとっては大切なものであり、今後も維持・充実させるべきものといえます。さらに「酒造」「雪景色」などは、今後の地域振興の資源となる可能性が十分にあるものともいえそうです。

ただし、現市町村別に集計すると、地域資源評価は、それぞれ異なっています。







【資料】各種調査結果/まちづくりに対する新市民の声と地域の強み  
新市民の声を集める 2

# まちづくりワークショップ\*

住民自身で、将来のまちづくりを考えました \*ワークショップ：参加型検討会

このワークショップは、長岡地域任意合併協議会（8市町村）が実施したものです。

「自分の住むまちの将来は、自分たちで考えよう」

8市町村に居住し、それぞれの地域で地域づくりの活動をしている人、新市の将来像に関心のある人50人が集まり、7グループに分かれて新市の将来像を考えていきました。ワークショップでは年齢や職業もさまざまな人が一堂に会し、活発な意見交換が行われました。予定の4回では時間が足りないというグループもあり、自主的に集まって話し合いを継続するなど、熱心な検討の結果、7つのグループそれぞれから新市の魅力ある将来像が提案されました。

## ◆実施概要

【開催時期】

平成15年4月～5月

【開催目的】

広く新市民による意見交換・検討を行う場としてワークショップを開催し、「合併するとしたらこんなまちになって欲しい」をテーマとした都市将来像づくりを行った

【参加者】

各地域（8市町村）で地域づくり等の活動をしている方、都市の将来像に関心のある方/50人

## 進め方と基本プログラム

まちづくりワークショップでは、まず参加者の地域が偏らないように7つのグループに分かれて、グループ単位で、＜話し合いの進め方＞＜自分たちのグループのアウトプット＞を考え、独自に進める方法で行いました。また、毎回、最後に“気づいたこと”“うれしく思ったこと”“不満に思ったこと”“言い残したこと”を振り返りシートに書いて次の開催の対応課題とすることで進めました。

第1回（4/17）

●ワークショップのテーマ・進め方の検討

第2回（5/2）

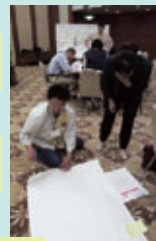
●地域の宝物・自慢・個性 ●新しい地域のイメージ

第3回（5/13）

●地域の素材をどうつなげるか ●こんなまちにしたい

第4回（5/21）

●まとめ結果発表



## 将来への期待や新市のあるべき姿

（グループ別まとめ）

### グループ1

#### 「命を育み、命のつながりと一緒に育つまち」

現在の市町村の枠はいらぬ。なぜならば、私たちは今変わろうとしているのに、再び行政区分が同じ枠しかないのであれば、私たちは変わろうとしてもなかなか変わらない。それを補うのが、「地区」の自立である。日常生活に支障をきたす恐れのある高齢化した社会では、小さな地域の相互の支えが必要になる。そのためにも、「地区」が自立した活動を直接行う必要がある。

### グループ2

#### 山と里と都市の調和

1. やま…里山の教育等への活用、自然のままに残し、300年後の世界遺産
2. むら…品質の高い農産品を供給し、地産地消の促進
3. 都市…都市機能の充実による商業雇用の充実

#### 地域の個性を活かすために

1. 住民の意識改革
2. 行政制度（住民自治）の改革
3. 地域循環社会ネットワーク
4. 地域の役割分担「自分の住むまちの将来は、自分たちで考えよう」

## グループ3

「ほたるが住めないところはまちじゃない！」

→残すべき自然環境は残そうという意味。

「世界に向けて、子供たちに誇れる

地域自慢のできるまちにしたい！」

→「食」「住」が充実しているという住み心地のよさを世界にアピールしたい。

「食」は、地産地消を実践するまちにしたい。

伝統農法の野菜を特産物にし、活用したい、子供たちに給食などを通じて伝えたい、各地区にある良い「食」を一同に集めた物産館をまちの顔にしたい。

「住」は、バランスのとれたまちにしたい。

文化・伝統（祭り、それに伴う伝統技術）が息づき、最先端技術なども盛んで、そのバランスがとれたまちにしたい。

「交通手段を確保」できるまちにしたい。

交流するにも交通手段がなければ交流が困難な側面がある。コミュニケーションは顔が見えることが大事。だから、交通や道路整備がされていることは大事。

## グループ5

人が育ち、住んでいる人、出ていった人が  
“わ”をつくっていきけるまち

- 今ある小さなコミュニティーが活（生）き続けるまち  
…村祭りetc.
- みんなが集まれる場所と喜びのあるまち  
…大きな祭りetc.
- 心にきざむ、ものがたりができるまち  
…伝統・教育etc.
- ゆったりできるまち、受け入れてくれるところ（場）があるまち…自然・田園・街並み・産業etc.
- やりたいことができる、したくない人はしなくてもよいまち…やわらかな住民参加・行政のしくみ

・ストレスのたまらないまち ・帰ってくるのが楽しみなまち

## グループ7

「生命を大切に・地域資源を活かす・  
地域のパワーアップ大計画」

- 越路町のすばらしい米づくりの技術を地域全体で行えば、質・量ともにもものすごい米どころ・ブランド米ができるという夢からお互いのまちにある強みを共有すれば地域全体がより発達できると考え、そのために必要な「情報交換・共有・発信」を提案する。
- 高齢者の豊富な体験や知恵を十分に活かし、特に子育てに役立てたいという「高齢者資源」の活用から、行政サービスにすべてを頼らない「住民参加」を提案する。
- 住民の考えを直接的に行政施策に反映させるための「目的税」の検討も提案したい。

## グループ4

パッチワーク都市の提案

パッチワーク布みたいに、各地域がその個性や特色を維持しつつ、全体でまとまりのある地域としたい。

▽各市町村の色のイメージ

長岡：ゴマ 見附：黄色 栃尾：黒（炭焼き）  
越路：黄金色 三島：緑 小国：緑+赤

- 自然・田んぼなどがイメージの柱になりながらも、その上で医療・教育が充実した都市イメージ。
- 行政の枠を超えて調整しあうことを大切にする。（近い学校に通えるように・・・など）

## グループ6

① 私たちの地域で大切なもの

<古き良き時代を伝える→ゆっくりズム>

- ・ものを大切にする心
- ・近所付き合い=小さなコミュニティ
- ・自然・人の温かさ ・自分の地域にしかないもの

<進め方として>

- ・高齢者の力の活用
- ・自ら考えられる知恵をつける施策
- ・地産地消

<平行して進めるもの>

- ・新潟県の中心都市の役割 ・地域間を結ぶ公共交通
- ・都市機能の整備 ・県庁の誘致

② 新しい長岡地域のテーマ

「深呼吸してごらん、街（そこ）に元気の素があるから」  
「未来を見つめ、育てる街」  
「東日本最大の“歓楽街”があってもいい？」  
「古きを尊ぶ未来都市」

## メッセージ

- 各市町村を知ることが新しい市を考えていくうえで必要。
- 楽しい人が多い。合併したらもっと楽しいなあ。
- 各市町村のすばらしい歴史を感じました。
- どのグループも地域の個性を大切にしたいと感じている。
- 新市に向けて、住民の意識改革をどのようにして広めていくかが課題だと思います。
- 顔を見て話し合うことが元気の素だなあと感じました。
- こんな会議を各市町村でもぜひやってほしい。





【資料】各種調査結果/まちづくりに対する新市民の声と地域の強み  
新市民の声を集める 3

# 有識者ヒアリング調査

地域内外の方から生の声を聞きました

この調査は、長岡地域任意合併協議会（8市町村）が実施したものです。

8市町村に居住し、各地域を代表する有識者の方々11人に加え、外から見た地域像や将来の可能性を探る目的で、8市町村出身で地域外で活躍している有識者4人の方々に、くわしくお話をうかがいました。地域内外の視点から見た地域の強みや特性・地域資源を踏まえ、将来への期待や新市のあるべき姿、そして将来構想を策定する際の要望やご意見など、自由にお話していただきました。

## 地域の強みや特性・地域資源

### 地域の強みや特性

- 製造業を中心とした産業基盤・技術の蓄積がある
- 整備された先進的な農業基盤がある
- 多様な産業が、優秀な人材を資源に存在している
- 文教都市・文化都市としての施設や基盤が整っている
- 教育環境、教育的歴史史跡と優れた郷土文化がある
- 一部地域では地域活性化への住民の自主的な動きがある
- 繊維産業の新しい取り組み（高品質化・※川下進出）や事業主の自主的努力の姿勢
- 高齢化への取り組みに優れている

### 活用すべき地域資源

- それぞれ地域に優れた自然・伝統文化資源がある  
各種史跡や寺院・牛の角突き・錦鯉・中山隧道・棚田・山菜・水棲動物、芝桜・かたくり群生・特徴的食物（とうがん・なんばん）・織物、手まり・鋸・和紙・地下資源（天然ガス）など
- 食文化（米・酒・のっぺ・他）や食品加工文化（あぶらげ・味噌など）
- 豊かな水、きれいな土と水
- 恵まれた道路と交通網

\*川下進出：ユーザーの志向を製品化に活かす取り組み

## 将来構想策定に関する要望や意見など

- 独自性のある街のデザインが必要だ  
「環境重視の田園都市的発展」  
「産学協働による県央中核都市」
- ビジョンコンセプトとして「住む人に優しく、来る人に優しい」HUMAN CITYはどうだろうか？

## 有識者ヒアリング調査の実施概要

1. 調査期間 平成15年4月22日～5月22日
2. 対象者 地域在住者：11人 地域出身地域外在住者：4人
3. 質問事項
  - (1) 地域の現状・課題・特性・資源について
  - (2) 合併に対する期待や地域の役割について
  - (3) 新市の今後のあり方について

## 将来への期待や新市のあるべき姿

## 産業振興関連について

- 工業都市としての発展、「ものづくり」を中心とする産業振興・活性化が基本にあるべき  
コンベンション・\*エグジビション都市としての可能性もある  
製造業の振興に向けた総合的な取り組み（産学協働による製品開発）
- 農業基盤整備事業を継続してほしい  
食品・農産加工業の振興と開発をするべき
- 産官学の連携を図って産業振興に取り組んでほしい
- 「食」をキーワードとする地域の活性化を（食の安全宣言、日常食の再発見と交流資源化）

\*エグジビション：展覧会・見本市など

## 生活関連について

- 8市町村相互の交流の拡大を図ってほしい（スポーツ交流など）
- 地域コミュニティ構築のための拠点を整備すべき
- 保育・育児の制度的支援を充実させてほしい（少子化対策）
- ごみの有料化を検討すべき
- 公共交通網を一層、整備してほしい
- 大学も含めて産業人材育成教育を行うべき  
（オリジナリティ・創造性のある人間教育、農業体験、郷土歴史教育、地域産業理解）

## 文化関連について

- 地域の文化を掘り起こして、共有し、それをコミュニティ形成や活性化の材料にしてほしい
- 地域それぞれの文化を結びつけて、より大きな価値を持たせるしかけづくりをしてほしい  
（大きなイベント+それぞれの祭り等）
- 地域文化・伝統芸能の保存のための施設を整備してほしい

## 行政のあり方について

- 多様な価値観や個性があることを前提に、個を大切にす制度や行政を！
- それぞれの地域らしさ・地域の良さを活かした活性化を図るべき
- 官と民のバランスが重要 「住民自治」の尊重
- 行政と住民の役割分担・関係を明確にする（民間でできることは、民間で行う、など）





【資料】各種調査結果/まちづくりに対する新市民の声と地域の強み  
新市民の声を集める 4

# 首長・議会代表者取材調査

## 8市町村の代表の意見をうかがいました

この調査は、長岡地域任意合併協議会（8市町村）が実施したものです。

有識者ヒアリングの一環として、8市町村の市長・町長・村長およびそれぞれの議会代表者にお話をうかがいました。

総合的に現在の8市町村各地域が共存共栄していくことが重要であるとわかりました。

## 地域の強みや特性・地域資源

### 地域の強みや特性

- 交通至便、教育・福祉・医療の充実、地価が安い、といった優れた居住環境がある
- 保守的な新潟地域にありながら、積極的に新しいものを取り入れるという気質もある
- 織物、ニット製品などで活躍する女性の存在は、新産業の創設に役立つはず
- 伝統文化・資源そのものと同時に、それを守っている人間が、資源だと考えている
- 信濃川は、文化的にも重要なものであり、大切にすべきもの
- 水（おいしい水100選）と緑

### 活用すべき地域資源

- 行政と企業タイアップの実績（酒蔵とのカルガモ農法など）
- 集落の区制度などによる地域コミュニティが形成されていること
- 農村文化・田舎暮らし体験“グリーンリース”
- 文化活動・ボランティアの実績
- ランドスケープの整備、ガーデン住宅の販売
- 幼児教育や福祉、文化活動等の実績

## 将来構想策定に関する要望や意見など

- 100年後のまちをイメージして、自分たちがこうなりたいという可能性を追求していくべき
- 地域資源を共有し、それぞれの地域の良さを最大限に活かす構想を
- ダイナミックで無駄のない地域全体の事業を打ち出すことが望ましい
- 良いビジョンを打ち出すのはもちろんのこと、ビジョンを実現していく仕組みをどうするのか、誰が責任を持って実行するのか、といった点について明確にする必要がある



## 有識者ヒアリング調査の実施概要

1. 調査期間 平成15年5月22日～5月29日
2. 対象者構成 8市町村の市町村長：8人、議会代表者：8人
3. 質問事項 (1) 地域の現状・課題・特性・資源について  
(2) 合併に対する期待や地域の役割について  
(3) 新市の今後のあり方について

## 将来への期待や新市のあるべき姿

## 産業振興関連について

- 30万都市となることにより、行政執行能力が高まると共に、ネームバリューが上がることで工場誘致等の可能性が広がる
- 大規模なコンベンションセンター、ドーム、スポーツ施設を建設したい
- 流通団地などにより企業誘致を図っていききたい
- 今後も農業を大切にしていきたい
- 安心で、安全で、潤う産業づくりをしたい
- 産業が潤い、農業の後継者が定住できるような合併であるべき

## 観光環境について

- 地域資源を活かした観光ルート等を考えて、まちの活性化につなげていきたい  
滞在型の観光へと転換していききたい点でなく、線（周りの市町村との連携や協力、観光資源の連携など）で結びついていきたい
- 豊富な自然を活かした、フィールドミュージアムづくりとしてまとめると面白い
- 大分県の湯布院のように、見て回る観光地としたい  
「健康的な観光地」を目指した方策を考えていきたい

## 生活環境について

- 安心・安全に住めるまちとしたい
- 地域資源循環の仕組みづくりをポイントとして考えている
- 高齢者にやさしいまち、福祉の充実した地域にしたい。40～50代の層の人たちへの施設（生涯学習なども行える）が必要
- 少子高齢化対応などきめこまかい住民サービスを期待したい
- 子どもたち、お年寄りが笑顔で暮らせる仕組みづくりを行いたい
- 高齢者の良い知識を受け継いで文化を残していくコミュニティの形成
- 人間性を重視し、米百俵の精神にあるように、将来を見据えた人材づくりを行っていききたい

## 文化のあり方について

- 自分たちが行っていることが、文化的なものであるとの認識を持ち、文化的な香りがする地域としたい
- 小さな市町村で守ってきた文化を、30万人で守っていくまちにしたい



【資料】各種調査結果/まちづくりに対する新市民の声と地域の強み  
地域基礎調査

# 地域の強みを考える

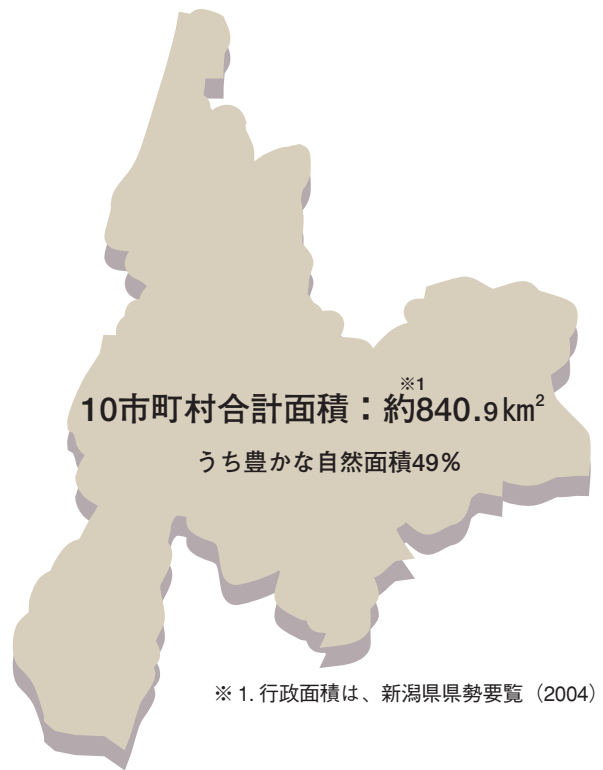
さまざまな指標やデータから新ながおかの強みをまとめました

## ①地勢・人口

- ・10市町村合計の人口は287,139人（平成12年国勢調査）で、新潟県の約12%を占めます。近年の人口増減傾向に関しては、ほぼ横ばいであり、少子高齢化に備え、地域活力の低下を回避することが必要です。
- ・今後更に合併した場合には、将来、人口30万人を超えることも考えられ、その場合、中核市※として県などから事務権限が移譲され住民と身近な行政の充実を図るとともに、経済や活力などの都市イメージが向上する可能性があります。
- ・10市町村の合計面積は約840.9km<sup>2</sup>であり、合併した場合は全国でも5番目の広大な行政面積の市となります。一方、手つかずの自然が49%を占め、豊かな自然を抱えた地域です。

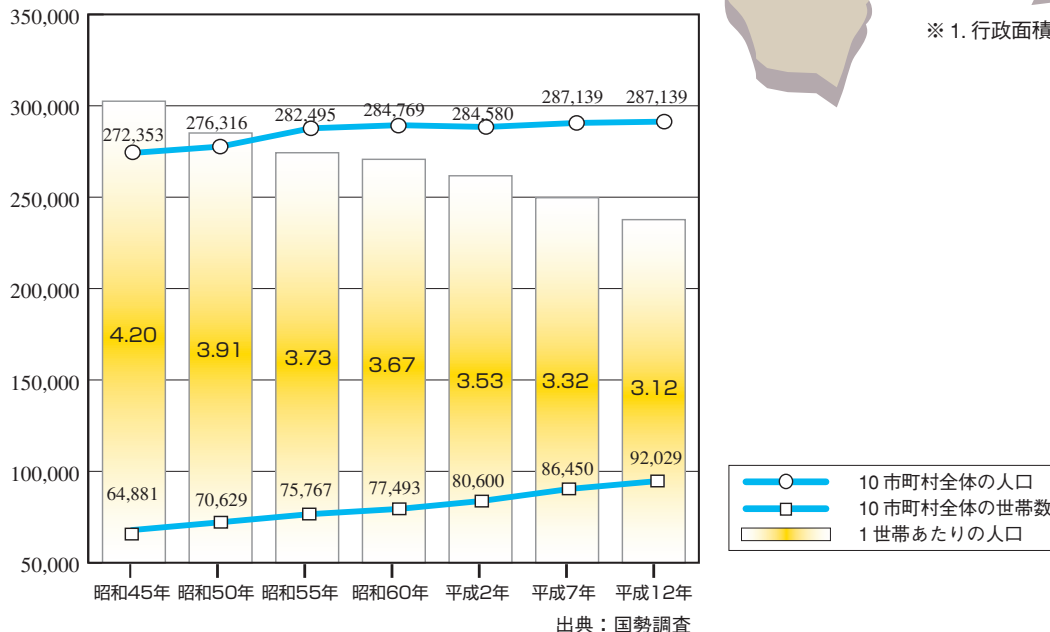
※中核市とは：

地方分権を推進することを目的として創設された都市制度です。人口、面積が比較的大きく、地域で中核的な役割をはたしている市に、市民生活に関係の深い福祉、保健衛生、都市計画、環境保全などの幅広い分野の事務権限が拡充され、市民に身近なところ（市役所）でこれまで以上にきめ細かな施策の展開が可能となります。また、中核市は政令指定都市に次ぐ都市として、地方自治の充実を求めている全国の市町村のリーダー的な役割を担っています。全国で35都市（新潟県では新潟市のみ）が中核市となっています。



※1. 行政面積は、新潟県県勢要覧（2004）

人口・世帯数・1世帯あたりの人口の推移



## ②交通の要衝性

- ・ 古くから信越線と上越線の分岐地点であり、近年は上越新幹線、北陸自動車道、関越自動車道の高速交通体系が整備され、広域交通面で優位性を持っています。
- ・ この優位性を活かした更なる地域の魅力創造が期待されます。



高速拠点（IC）までのアクセス

市町村	高速IC名	アクセス延長 (k.m)	主なルート（路線名）
長岡市	長岡IC	5.3	・山田中潟線～・351号～・宮本大島線～・8号
中之島町	中之島見附IC	4.5	・見附中之島線～・8号
越路町	長岡IC	7.3	・柏崎高浜掘ノ内線～・長岡片貝小千谷線～・404号～・8号
三島町	長岡IC	8.9	・与板関原線～・宮本大島線～・大荒戸越路線～・8号
山古志村	小千谷IC	12.0	・栃尾山古志線～・291号
小国町	小千谷IC	8.9	・404号～・291号
和島村	中之島見附IC	14.4	・116号～・与板北野線～・403号～・見附中之島線～・長岡中之島見附線～・8号
寺泊町	中之島見附IC	22.2	・長岡寺泊線～・403号～・見附中之島線～・長岡中之島見附線～・8号
栃尾市	中之島見附IC	15.5	・見附栃尾線～・上新田市野坪線～・8号
与板町	中之島見附IC	9.7	・403号～・見附中之島線～・長岡中之島見附線～・8号

※1. 各市町村からインターチェンジまでの延長は、各市町村の中心部(役所所在地付近)からのものである。  
 ※2. アクセスルートは最短のものを示した。  
 ※3. 区間延長は、1:50,000地形図からのスケールアップである。  
 なお、和島村・寺泊町・与板町からICまでの延長は、「ゼンリン電子地図帳 Z【zi:】5」からのものである。

### ③農業

- ・長岡市の農家数が県内第1位（新潟県総合政策部統計課「新潟県100の指標（平成16年度版）」より）であることをはじめ、この地域では、大規模ほ場の整備、先進的農業技術の積極的導入など、農業先進地です。特に歴史的にも稲作中心の農業構造であり、長岡市の米生産額県内第1位（同上）をはじめ、米生産の占める割合が高く、米どころの新潟県においても質・量ともに一大米産地です。
- ・県平均と比較して一戸当たりの農業粗生産額が低いのは、この地域には中山間地域が多いためと考えられますが、棚田による美しい景観価値の活用をはじめ、伝統的技術によるこだわりの米づくりや観光農業への展開など、地域の独自資源としての活用の試みが始まっています。

	①農業粗生産額 (百万円)	②米粗生産額 (百万円)	③農家数 (戸)	米の生産額割合 (②/①)	一戸当たり生産額 ①/③ (百万円/戸)
長岡市	10,351	7,691	4,271	74%	2.42
中之島町	3,880	3,211	1,145	83%	3.39
越路町	2,115	1,610	986	76%	2.15
三島町	1,240	911	443	73%	2.80
山古志村	611	239	389	39%	1.57
小国町	1,687	1,354	1,256	80%	1.34
和島村	1,358	1,008	577	74%	2.35
寺泊町	2,001	1,626	950	81%	2.11
栃尾市	3,002	2,090	2,362	70%	1.27
与板町	849	714	325	84%	2.61
10市町村	27,094	20,454	12,704	75%	2.13
新潟県	316,303	205,098	116,265	65%	2.72
新潟市	16,889	7,631	3,181	45%	5.31

出典：農家数 農林水産省統計情報部「2000年世界農林業センサス新潟県統計書」H12  
 その他 北陸農政局新潟統計情報事務所「新潟農林水産統計年報（農林編）H14

### ④ものづくりの技術

- ・10市町村合計の製造品年間出荷額、製造業事業所数とも新潟県全体の約14%を占めています。特に栃尾市で歴史的に盛んな繊維工業の分野では、県全体の事業所数の約24%をこの地域で占めています。
  - ・小国和紙や三島の手引き鋸などの伝統技術の継承と、長岡技術科学大学や長岡造形大学などで最先端技術の育成が同時に行われています。
- また、与板の越後与板打刃物は全国的に有名で、伝統工芸士が多数います。

#### 製造業の状況

	製造品出荷額等 (百万円)		製造業事業所数		1事業所当たり 出荷額 (万円/箇所)	
	県内比率	県内比率	県内比率	県内比率	県平均との比較	県平均との比較
長岡市	481,865	11%	1,100	8%	43,806	140%
中之島町	9,570	0%	50	0%	19,139	61%
越路町	48,574	1%	56	0%	86,740	277%
三島町	22,064	1%	36	0%	61,288	196%
山古志村	1,294	0%	5	0%	25,870	83%
小国町	6,386	0%	41	0%	15,576	50%
和島村	6,646	0%	31	0%	21,439	68%
寺泊町	15,201	0%	88	1%	17,274	55%
栃尾市	28,326	1%	288	2%	9,835	31%
与板町	10,285	0%	98	1%	10,495	33%
10市町村	630,210	14%	1,793	13%	35,148	112%
新潟県	4,407,676	100%	14,068	100%	31,331	100%
新潟市	501,584	11%	1,110	8%	45,188	144%

出典：平成15年 工業統計（新潟県総合政策部統計課HP発表（2005年1月時）より）

#### 産業別（中分類）製造業の事業所数 上位10位

	10市町村合計			新潟県	
	分類	事業所数	県内比率	分類	事業所数
第1位	一般機械	299	18.1%	金属製品	3,825
第2位	金属製品	286	7.5%	一般機械	1,652
第3位	繊維	211	23.5%	食料品	1,403
第4位	衣服・その他	187	19.0%	衣服・その他	985
第5位	食料品	156	11.1%	家具・装備品	907
第6位	家具・装備品	139	15.3%	繊維	897
第7位	その他	98	18.5%	木材・木製品	571
第8位	印刷・製本	75	13.3%	印刷・製本	564
第9位	電気機械	61	18.4%	その他	531
第10位	木材・木製品	42	7.4%	窯業・土石製品	418
総数		1,554	13.2%		11,753

出典：平成15年 工業統計（新潟県総合政策部統計課HP発表（2005年1月時）より）



## ⑤自然・文化・伝統

- ・10市町村は、山岳、丘陵（里山）、河川、海など豊かな自然が身近に存在しています。一方で、信濃川等に育まれた肥沃な土地に太古から人が住んできた歴史があり、縄文遺跡や城址などの史跡や寺社・仏像、古民家・雁木、北前船の絵馬、良寛さんに関する史跡など、歴史的資料や建造物が多数残されています。
- ・また、神楽舞や大凧合戦、牛の角突きや花火大会など、各地の歴史に根ざした祭りなどで賑わっており、地域の伝統や歴史が文化として大切に受け継がれています。



田園風景（三島）



万本桜（中之島）



良寛と貞心尼（和島）



打刃物（与板）



コシヒカリ（中之島）



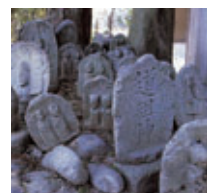
日本海（寺泊）



ホタル（越路）



米百俵の群像（長岡）



道祖神（栃尾）



火焰土器（長岡）



紙漉き（小国）



棚田（山古志）



牛の角突き（山古志）